

京大教職員が語る
海外チャレンジストーリー

道なき道、ならぬ山あり谷あり のデザートロードを突き進む

京都大学学術研究支援室URA 坂本翼

ざっくりした自己紹介



- 千葉県千葉市生まれ
- 早稲田大学でエジプト考古学を専攻
- スーダン(2010-2011)、フランス(2012-2017)留学を経て博士号取得
- エジプト、スーダンで毎年発掘
- 2018年10月京都大学着任
- 本学の国際共同研究の推進を主に支援、その一環でマダガスカルなど訪問

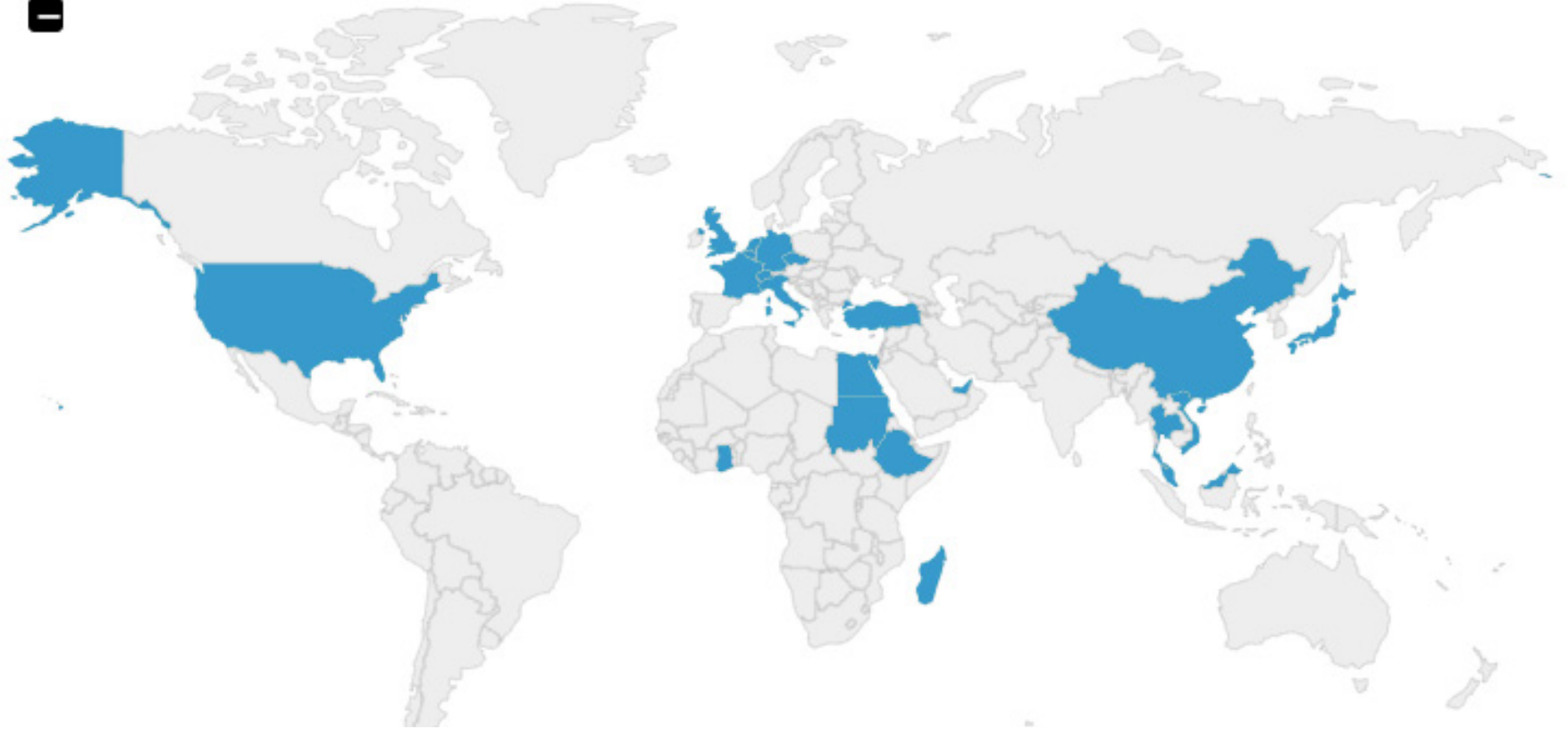
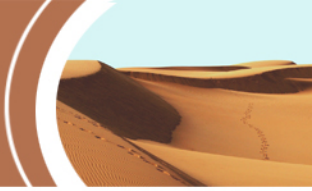
なりたかったもの

- 大工→ミステリーハンター→宇宙飛行士→深海魚の研究者→考古学者
- たぶん、得体の知れないものに惹かれながら生きている

- 最近サウナスパ健康アドバイザーを取得



これまでに訪れた20カ国（トランジットを除く）



- 学部：エジプト→トルコ
- 大学院：スーダン→イギリス→アメリカ→フランス→スイス→イタリア→チェコ
- 前職：ベトナム→フィリピン→中国
- 京大：タイ→マダガスカル→エチオピア→ガーナ→ドバイ→ドイツ→ルクセンブルク→オランダ

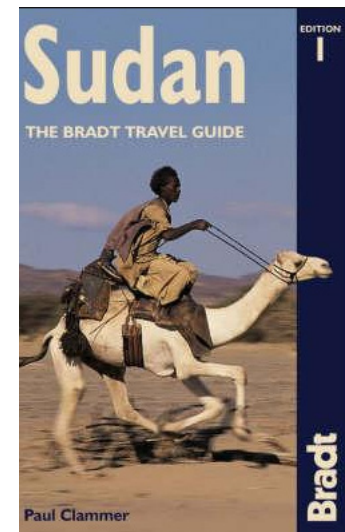
スーダン?



なぜスーダンに留学？



- 「日本で誰もやってないからお前が行かなきゃダメだ」と指導教授に言われる
- 運良く奨学金（日本学術振興会、月20万/3年）が取れた
- 取れなかったら行けなかったと思う
- 2010年2月～2011年6月までスーダンの首都ハルツームに滞在
- 2010年当時のスーダンは荒れに荒れていた
- 国際刑事裁判所がバシル大統領に対する逮捕状を発布(2009.3)
- 身の危険を感じた
- ガイドブックがないから何もわからない！地球の歩きかたも×
- 周りでスーダンに行ったことのある人もいない
- スーダンにメールを送ってもまず返ってこない
- 住宅事情もわからない
- ただ時間だけが過ぎ、留学時期が近づく、、



一番大変だったこと



留学前①

- 奨学金の受給確定にはスーダンの受け入れ研究者からの直筆レターが必要
- 平日の昼下がりに突然の電話
- 「明日中にレターの写しを提出いただけないと取り消します」
- 途方に暮れつつ帰宅ししばし考える
- 受け入れ研究者には何度連絡しても返信がない状態が続いていた
- まさに絶体絶命
- 1年前に1度お会いし、名刺を交換した大学院生が留学中なのを思い出した
- このチャンスを逃したら次はない！
- 藁にもすがる気持ちでメールし返信を待った。
- 「受け入れ研究者を直接訪問し、レターのサインをお願いし、それをスキャンして送って欲しい」
- 今思えばものすごく失礼なお願い
- 奇跡的に数時間後に返信があり、直行してくれた＋携帯電話でつないでくれた

一番大変だったこと



留学前②

- 留学時に直面するのが宿舎の問題（住居が決まらなければ何も進まない）
- とはいえ前述の通り、留学先の大学からの情報提供も、ガイドブックも望めない
- ネット上にもスーダンの賃貸住宅サイトなどはあるわけもなく、、、
- さて、どうする？？？
- ネット上で現地在留邦人のブログを探してはコンタクトした
- すると、そのうちの1人から「うちでもよければ泊まっていいですよ」と誘われる
- 住居決定！

受け入れてくれたのは情熱大陸の著名な先生でした



認定NPO法人 ロシナンテス
ROCINANTES

ロシナンテスとは
About

ロシナンテスの活動
Activity

活動を支援する
Support



「医」を届ける。

誰もが健やかに生きることができる未来のために

メールマガジン登録

1日33円
から
寄付をする

写真 / 内藤順司

2009年01月11日放送



川原尚行

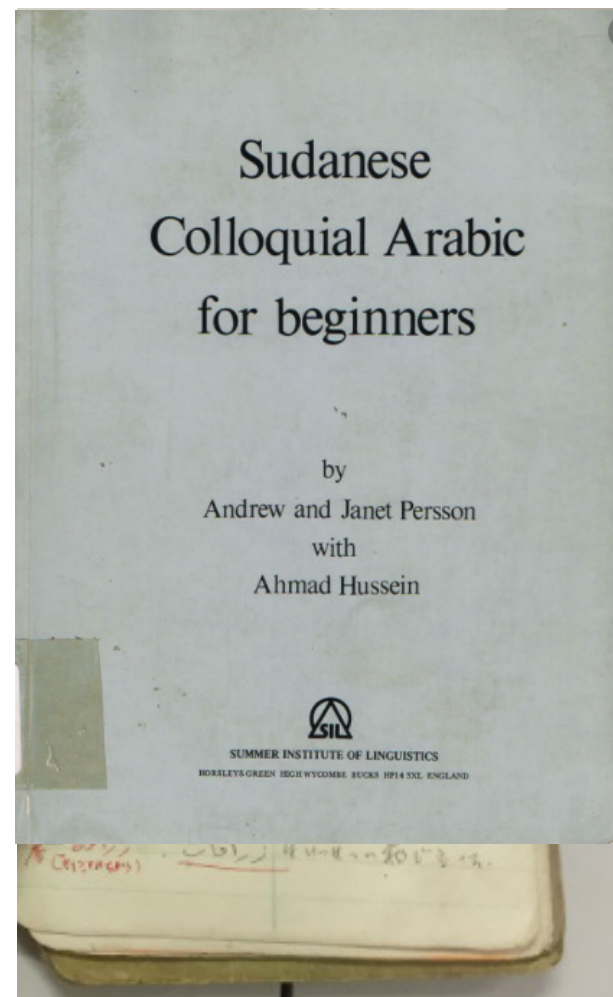
医師

-
- スィカのアラビア語方言
- アラビア単語道場 ARABIAGO.NET
Twitterの皆さん、ご協力ありがとうございました

どうやってスーダン方言を学んだか



- 留学開始時点ではほぼ知識ゼロ
- 現地方言は現地で学ぶしかない
- 人と会話しては知らない単語を書き留め、新たな語彙を増やしてゆく毎日
- 最初に滞在した宿舎の方々が助けてくれた
- スーダン人も初対面でもやたらと話しかけてくるので、会話相手には困らなかった
- アラビア語を話せるようになる必要はあったが、自分で書けるようになる必要はなかった
- いまでも書けるのは自分の名前程度
- 1年ほど経ち、現地の国際機関で働く外国人用の語学学校があることを知る
- Catholic Language Institute in Khartoum



苦難はまだ続く。。。「全財産を使い切る」



- 王道は、最初の数ヶ月分の滞在費を持ってゆき、その間に現地口座を開設し、日本から定期的に送金する（京大『海外留学の手引き』でもそう勧めている）
- 「現地で一番大きな銀行ならまず大丈夫だろう」
- 四苦八苦の末にハルツーム銀行に口座を開設するも新たな問題発覚
- 当時スーダンアメリカの経済制裁を受けており、外貨送金が不可能だった（もちろん日本円には対応していない）

文字通りの一文無しに！

- スーダン日本大使館に助けを求めたらコッソリ帰国分の旅費を貸してくれた
- 200万円を身につけ再渡航
- 現金を入れたスーツケースをチェーンでベットにくくりつけて保管していた



スーダンから帰国して半年後にフランスへ (2012-2017)



- スーダンでも、研究の一環でフランスの考古学研究所に出入りしていた
- ある日、研究員から発掘調査に誘われる「じゃあフランスのリールにすれば？」
- リール第3大学（現リール大学）
- パリからTGVで60分、ブリュッセルまで30分
- 学生寮に滞在（月120€、光熱費・水道代コミ）
- 食事はほぼ学生食堂（1食3€）
- 運良くフランス政府給費留学生に採用
- スーダンで発掘中にスカイプ面接
- 砂漠のと真ん中、電気も引かれてない。。
- 前日に首都に戻り、最高級ホテルの1室で面接



またも立ちはだかる語学の壁、、、



- フランス語は第2外国語でかじった程度
- 2年時に間違って意識高い系の授業を選択（授業もフランス語、途中で挫折）
- そもそもスーダンの次はドイツにしようと思っていた（ゲーテ・インスティトゥートの夏季集中講座を受けたりしていた）
- でもフランス語の論文自体は日常的に読む必要があった
- 読解はOKだが会話がまるでできない、という状況で渡仏
- フランスの博士課程は、修士課程と異なり語学のレベルは不問だった



週15時間の語学＋博士研究



- 博士課程学生は、最初の1年間は授業料免除
 - 初回の授業で先生に話しかけられるも理解できず（A2開始、順次B1、B2へ）
 - 授業の合間に研究し、夜も研究
 - ほとんど遊ぶ暇無し
 - タンデムもやらなかった
- 毎年、発掘調査でフランス人/スーダン人と丸々2ヶ月寝食を共にしたのが大きかった



NIVEAU DUEF B2 GROUPE 1				
Jours	Horaires		Enseignants	Salles
lundi	11h00 - 12h00	1h	Martine Eisenbeis phonétique	Labo
	13h30 - 15h00	1h30	Marie Pascale Hamez Initiation Français des affaires	A4 075
	15h30 - 17h00	1h30	Marie Pascale Hamez Grands repères littéraires et culturels	A4 075
mardi	10h00 - 12h00	2h	Marie Pascale Hamez Production écrite	A4 075
	14h00 - 17h00	3h	Martine Eisenbeis Réception, production et interactions orales	A4-106
mercredi	10h00 - 12h00	2h	Edith Dubois Réception de l'écrit	A4 089
	14h00 - 15h30	1h30	Martine Devinck Grands repères historiques et culturels	A4 106
jeudi	9h00 - 11h30	2h30	Martine Eisenbeis Grammaire	Labo
	14h00 - 15h00	1h	Atelier blog Nord éclair	A4 069

海外経験でもっとも自分の糧になったもの



- 若いうちはなんでもできる！
- 大抵のことは大丈夫！
- 最初の一步を踏み出せば
何かが動き出す

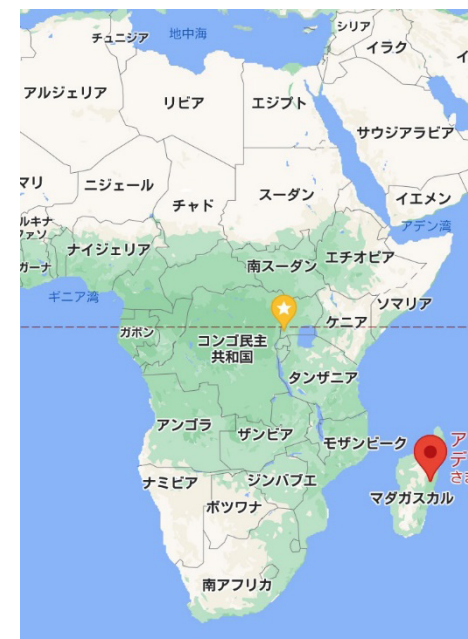


海外経験でもっとも自分の糧になったもの



- 世界で活躍する研究者になりたかった
- できることは（自分なりに）全てやった
- それでも叶わないことがある
- **全ては選択の連続で、その中には人生を左右する局面もある**
- 博士号取得後、世界中の研究機関に公募書類を送り続けた
- 「日本の大学に助手のポジションがあるがどうする」
- 日本に戻ったら世界で活躍する研究者にはなれない（と思った）
- オファーを辞退して1年間フランスに残ることを決断
- スカ이프面接、イギリスやドイツ、ポーランドの大学に応募、面接etc.
- 最終的に落選、帰国
- 夢を追えるのは人生の中でも一握りの期間しかない
- **自分の人生は自分で切り開くもの**
- 自分なりの価値基準、判断基準、批判の受容 etc. 人生の土台を作る

おまけ：マダガスカル



ご清聴
ありがとうございました

